



2018年の北海道のサッカー主要大会がすべて終わり、今年のシーズンも幕を閉じました。雪国の北海道では冬季に盛んになるフットサルが始まります。今号では、サッカー新1級審判員 荒上修人氏の今年一年の振り返りと、フットサル1級審判員 寺島日高氏、フットサルインストラクター坪坂智光氏からの記事を掲載します。

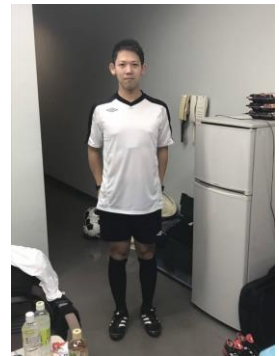
2018シーズン振り返り「ケア」

札幌地区 荒上 修人

北海道の外サッカーのシーズンが終了しました。2018年も大変お世話になりました。2018年は1月のフィットネステストから始まり、NC担当審判員として活動をさせていただきました。その中でJFL副審、高円宮 U-18プレミアリーグ主審、各種全国大会といったカテゴリーの試合を担当いたしました。今年での活動での反省点や学びについて以下にまとめます。

○主審に関すること

- ・浮き玉の競り合いについて、プレーの優先権、ボールの落下点はどこかを考えながら動き、
判定する。
- ・途中交代で入ってきた選手の温度を感じる。
- ・ベンチへのマネジメントについて、グレーな事象が起きたときに対応するよりは、白黒 はっきりつくときなどこちらに分がある時の方が効果的。
- ・自分のレフェリースタイルを確立していくことで、ぶれないものを芯として色々なアドバイスを肉付けしていく。



○副審に関すること

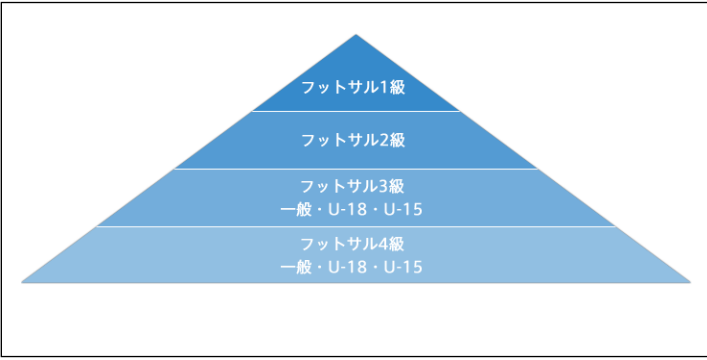
- ・オフサイドのフラッグアップのタイミングについて、主審に気づかれないことがあったとき、なぜ気づかれなかったのかを考察しておく。主審が見てくれなかったから？フラッグアップのタイミングが遅かったから？など。
- ・主審からの見え方(アングル)を常に考えておく。ハンドの判定やファウル・ノーファウルの判定に関して、距離の遠さを理由にサポートしないということがないように。
- ・フリーキック時の再開位置について、副審ができるサポートとしては再開位置の延長線に立っておくことで、ボールをずらされても正しい場所を伝えることができる。
- ・サイドステップでタッチラインに正対するのに左右のブレを無くすためしっかりと体幹の強化を行う。

2018シーズンを振り返ると、「ケア」という言葉がキーワードだと感じました。「care」には「心配」、「注意」、「配慮」、「気配り」、「気にかける」、「大事にする」といった意味を持ちます。試合中の様々な場面でのケア、マネジメントなどの選手に対するケアもさることながら、自分自身に対するケアも大事だと考えさせられました。シーズン中盤である8月にケガをしてしまい、満足のいくシーズンとすることができなかったところが一番の反省点ではありますが、その反省を2019シーズンへの良い準備にしっかりと活かしていきたいと思っています。支えていただいたサッカー関係者の皆様ありがとうございました。

【活動報告】フットサル1級審判員 寺島 日高

現在、北海道内では、全日本フットサル選手権の決勝戦、Fリーグプレーオフ決勝を担当した常國広平氏を中心に、5名が1級審判員として活動しています。

全国リーグであるFリーグは、今シーズンよりディビジョン1(1部)に加え、ディビジョン2(2部)が新設され、より多くの地域に裾野が広がっています。



Fリーグでは

- フェアで公正なリーグに
- 日本最高峰の戦いを見せるリーグに
- フットサルの楽しさを創造するリーグに
- 仲間と喜びを分かち合うリーグに
- スポーツがともにある豊かな未来を作るリーグに

をキーワードにしています。選手やチーム、そして見に来て下さる観客の方々にとって魅力あるリーグとなるように活動に取り組んでいます。また、2020年のフットサルワールドカップに愛知県が立候補していましたが、先日開催地がロシアに決定しました。そのため2019年は、Fリーグ、フットサル日本代表にとって、ワールドカップ予選を戦う年となります。

北海道という地域がら、冬季間フットサルに関わる審判の方も多くいることと思います。サッカー審判員とフットサル審判員の大きな違いの一つに、2人の審判が笛を吹くことができることがあると思います。2人の審判員の判定基準をどのように合わせていくのか、ピッチを監視するポジショニングの取り方、コミュニケーションの取り方、視野の分担、協力の仕方などを考えながら試合に臨んでいます。

さらに良いレフェリングができるように、ともに審判活動する仲間と、日々研鑽し、学んでいきたいと思いません。

サッカーシーズンも終わりを迎え、夏場はサッカー中心だったチームもフットサルを行う機会が増えます。

フットサルは本年も競技規則の改正はありませんが、ここで、サッカーとフットサルの違いやフットサル特有の規則を簡単におさらいしたいと思います。



- ◆ キックオフ
 - ✓ キックオフは、**前方にけらなければいけません。**
 - ✓ キックオフから**直接得点することはできません。**
- ◆ アンダーシューズの色
 - ✓ アンダーシューズの色は、**シューズの主たる色と同じもの**でなければならず、シューズの裾と同じ色のものは認められません。
- ◆ ペナルティーエリア内での決定的な得点の機会の阻止
 - ✓ ボールをプレーしようと試みて犯された反則であっても**退場が命じられます。**
- ◆ ペナルティーキック
 - ✓ ボールインプレーになる前にゴールキーパーが違反し、ボールがゴールに入らなかった場合、**全ての場面でゴールキーパーが警告されるとは限りません。**
- ◆ 前後半の終了
 - ✓ 前後半の終了を知らせる合図(ブザー)が鳴った後、主審が笛を吹きますが、**基本的にはブザーが鳴ったとき終了します。**
 - ✓ 最後にプレーされた**ボールがゴールに向かっている途中でブザーが鳴った場合**、主審はそのプレーの行方を見た後、笛を吹いて前後半が終了します。
 - ✓ 主審がボールの行方を見ているとき、次の状況が起きると前後半が終了します。
 - ・ボールが直接ゴールに入り得点となったとき。
 - ・ボールがピッチの境界線を越えたとき。
 - ・ボールが守備側競技者(GK 含む)、ピッチ面、ゴールポスト、クロスバーに触れて境界線を越えた、または得点となったとき。
 - ・守備側競技者(GK 含む)がボールを止めたとき。
 - ・ゴールポスト、クロスバーから跳ね返り、ゴールラインを越えなかったとき。
- ◆ U-15 の試合
 - ✓ U-15 の試合の場合、日本独自の規則があります。
 - ✓ GK がプレーしたボール(ゴールクリアランスを含む)は、プレーされた後に、**ピッチ面に触れるか他の競技者に触れないままハーフウェーラインを越えた場合**、相手側チームにハーフウェーラインの任意の地点からける間接フリーキックが与えられます。
- ◆ ペナルティーマークからのキック
 - ✓ 使用するゴールは**主審が決定します。**
 - ✓ キックの進行中に一方のチームの競技者数が多くなっても、**競技者数は減らしません。**